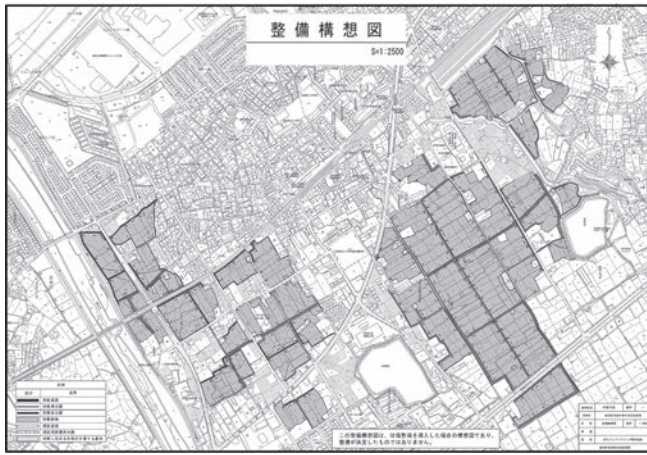


# ほ場整備構想図を提示

## 田尻町集落座談会で

田尻町農業委員会（メ野仁美会長）は、1月31日に嘉祥寺地区、2月2日に吉見地区で集落座談会を開いた。

両地区とも、これ



ほ場整備を行った場合の構想図が示された

# 基本法などテーマに 吹田市農業者研修会

吹田市農委（吉田俊之会長）は2月7日、市文化会館で農業者研修会を開いた。当日は市内の農業者等約30人が参加した。

はじめに農業会議の北川次長が農業情勢について報告。今通常国会で上程される食料・農業・農村基本法

## 島本町で集落座談会が開催

島本町農業委員会（好本勲会長）は、昨年12月23日に高浜地区、1月27日に東大寺地区で集落座談会を開き、それぞれ24人、9人の農家が

まで意向調査の結果をもとに地域の農業の課題や将来像について話し合いを進めてきたが、道水路や区画の整備が必要との意見が多かったため、町内ではほ場整備を行った場合の構想図を示し、事業推進に向けた組織体制づくりの事例を説明した。

参加した農家からは既に農業倉庫やハウスが立つ農地はどうするのか、道水路だけの整備も

参加した。座談会では、事務局が地域計画策定目的などの概要と、昨年10〜12月に行った農家意向調査の結果をもとに作成した現況地図等を報告した。

また今後、農地ごとの将来の

改正の方向性にふれ、食料自給率向上に向けた農業者への所得補償実施など農業会議の要請内容を紹介した。

また、会議所がこのほど発行

受け手を地図化する目標地図の素案を作成するため、意見・質問があれば、委員会に寄せたいと説明した。

座談会ではイチゴを栽培する法人を担い手として位置付ける一方で、両地区とも都市的利用に関心のある農家から様々な意見が寄せられるなど話し合いが多岐にわたった。

そのため、事務局は個別の聞き取りや、来年度までに再度の協議の場を設ける予定。



活発なやりとりが行われた

した「我が家の農地が地域の宝であり続けるために」を紹介。農地の継承の基本は家族での話し合いであることを強調した。

府北部農と緑の総合事務所の

宮崎副主査からは「北摂いちご」の取り組みを紹介。参加者からいちご経営における初期投資や経営上の課題など具体的な質問が相次いだ。

(北川)

## 月間農政ファイル

1・21〜2・20

1・24 農水省は、令和5年度食料・農業・農村白書の構成案を明らかにした。トピックスは、食料安全保障の強化に向けた構造転換をはじめ7項目。本編では、農地と人対策について「担い手の育成・確保」「担い手への農地集積・集約化と農地の確保」などの項目を設けている。

1・30 農水省は、令和5年の農林水産物・食品の輸出額が前年比407億円（2・9%）増の1兆4547億円であると公表。過去最高を11年連続で更新した。品目別では、穀物等が前年比6・5%増に対し、野菜・果実等は前年比1・2%減に留まった。

1・30 農水省は、令和5年の農作物価指数を発表。3年前を100とした指数は、生産資材全体で121・3と昭和26年以降最高。肥料・飼料は約150の一方、農産物は107・8に留まり、十分な価格転嫁が課題である実態が浮彫りになった。